

《中学生の部 優秀賞》

「高齢化社会について考える」

有田市立箕島中学校 3年

宮井 遥菜 さん



日本では、高齢化が急激に進んでいて、それに伴っていろいろな問題が起こっています。そんな中で、最近、私が高齢化問題について考えるきっかけになった出来事がありました。

それは、私の住んでいる地域でお年寄りが自宅の部屋で倒れているのを、たまに食事を届けに来た人が発見して救急車を呼んでくれたと言う話で、見つかるときの少し遅かったら孤独死していたかも知れなかったそうです。

私は以前、近所に住んでいる人から異臭がすると通報があったことがきっかけで、高齢者が孤独死していたことが発覚したというニュースを見たことがありましたが、遠くの都会での出来事だったので、私には全く関係のない話だと思っていました。

しかし、身近にも孤独死が起きるかもしれないことを知って私はとても驚きました。そして、どうしてそのようなことが起きるのだろうと調べてみることにしました。

和歌山県は、全国で8番目に高齢化が進んでいて、住んでいる人の十人中三人が六十五歳以上の高齢者になっています。そして、高齢者のうち二割以上の人がひとり暮らしをしています。人口の多い市や町がある海岸から離れた山奥では、特に高齢化が進んでいて、住民の半分以上が高齢者の町もあるそうです。

私は、孤独死は都会だけの問題ではなく、私の住んでいる地域でも起きる可能性のある問題だということが分かって心配になりました。

高齢者が誰にも気づかれずに病気などで亡くなってしまふのは、とても悲しいことだし、もし自分がその高齢者の立場だったらどんなに心細くて怖い思いをするのか想像もできません。

ひとり暮らしのお年寄りの多くは、病気で寝たきりになったり、生活に困ったりすることなく、近所の人たちと一緒に地域の活動にも参加していますが、孤独死した人は病気になったり、一緒に暮らしていた家族が亡くなったことなどが原因で、地域の活動に参加しなくなったり、近所付き合いもなくなってしまった人が多いそうです。

孤独死を少しでも減らすためには、地域の人たちとつながりを持つことが大切だと思います。日頃から積極的に地域の活動に参加している人なら、少しでも変わったことがあれば、地域の人たちに気付いてもらええると思います。

もし、地域の活動に参加しなくなった人がいれば、周りの人が訪問していくと

いいと思います。ひとり暮らしの高齢者がいるかどうかアンケート等で調査すれば、訪問が必要な人がどこにいるのか、わかりやすくなると思います。

実際に地域のボランティアで、ひとり暮らしの人を見守ったり、必要に応じて訪問したりする「地域見守り協力員」という人がいるそうで、県内で約二千人が活動しているそうです。

また、ポストに郵便物や新聞がたまっていないかチェックすることも孤独死を防ぐ方法になるので、郵便局や新聞配達、宅配便の人たちが高齢者等の「異変のサイン」に気付いたときは、市町村の窓口に連絡する見守り活動も行われているそうです。このような取り組みで一人でも多くの孤独死を防ぐことができましたらいいと思います。

日本では、これからも高齢化が進んでいくので、孤独死はどんな人にもありえる問題だと思っています。だからこそ、私たち一人一人がこの問題と向き合っていくかなければならないと思います。

今、私たちが出来ることを考えると、近所に独り暮らしの方がいるかどうか気にかける事だと思っています。毎朝、通学途中に出会う人に挨拶をして顔見知りになれば、その人がどこに住んでいて、どのように暮らしているのか関心を持つことにつながるので、私も「おはようございます」「こんにちは」と積極的に声をかけることから始めたいと思います。